

み年の郷土玩具

「み年郷土玩具展」
会場：三重県庁舎（1丁目13番地）
期間：12月15日～2月17日



写真1 駒込富士神社の麦わらへび

蚕業においては天敵である鼠除けとして、また農業では龍と同様に水を掌る神として扱われてきました。そのためへびの郷土玩具には、その力を畏れ、あやかりとする想いから福をもたらし縁起物や特別な外観からユニークな造形のおもちゃなどが伝わっています。明治村の竹尾コレクションには、他の干支に比べて少ないものの五十三種のへびの郷土玩具が収められており、その一部をここでご紹介いたします。

●駒込富士神社の麦わらへび

東京都（写真1）

駒込富士神社の麦わらへびは、東京都文京区駒込の富士神社で、旧暦六月一日の富士山開き当日の祭礼において頒布される縁起物です。

江戸時代中期に疫病が蔓延した折、ある農夫が麦わらでへびを作り販売したところ、買い求めた人々がことごとく疫病の難から逃れられたと評判になったことが、由来のひとつとされています。

麦わらへびは井戸に吊るせば悪疫除けに、台所に吊ると虫害除けとなり、夏の間は水に不自由することなく水の毒も消すことができると信じられ、参詣土産として人気を博しました。

●大山の竹へび 神奈川県（写真2）

大山の竹へびは、神奈川県伊勢原市の大山阿夫利神社の参詣土産として親しまれてきました。同神社は雨をもたらし農業の神として古くから関東一円の信仰を集め、参詣に訪れる人々の土産物として木工、漆器、コマなどの挽き物細工とともに竹製のへびも製作されるようになりました。

竹を三センチほどに輪切りにしたものが針金で繋がれており、尾を持って左右に振ると蛇行して進



写真2 大山の竹へび

が掲載されています。

『うなるの友』を見ていくと、竹尾コレクションに所収されたへびの郷土玩具の多くは取り上げられておりません。したがって、コレクションに収められたへびの郷土玩具は、『うなるの友』が完結して以降、つまり少なくとも大正末期以降に製作されたものが大半であることが推察されます。

大正時代末期の日本では、交通網の整備と進展により、特に鉄道を利用した国内の観光産業が盛り上がりを見せていました。この影響を受け、旅の土産物として格好の素材であった郷土玩具は、観光資源として注目を集め、大正末期から昭和初期にかけて郷土玩具のブームが沸き起こります。郷土玩具はこの時期を経て、一部の愛好家たちの趣味の対象であったものから、広く一般の人々にも親しまれる存在となりました。

この当時、一般の旅行者に向けた旅行の案内雑誌でも、郷土玩具の特集が組まれるようになり、昭和三（一九二八）年に創刊された『旅と傳説』では度々郷土玩具特集号が生まれ、同年発行された六

附 番 具 玩 土 郷	
大正時代末期の日本では、交通網の整備と進展により、特に鉄道を利用した国内の観光産業が盛り上がりを見せていました。この影響を受け、旅の土産物として格好の素材であった郷土玩具は、観光資源として注目を集め、大正末期から昭和初期にかけて郷土玩具のブームが沸き起こります。郷土玩具はこの時期を経て、一部の愛好家たちの趣味の対象であったものから、広く一般の人々にも親しまれる存在となりました。	昭和三（一九二八）年に創刊された『旅と傳説』では度々郷土玩具特集号が生まれ、同年発行された六

写真3 昭和初期頃の「郷土玩具番附」

このような郷土玩具人気の高まりに伴い、観光地では新たな郷土玩具が創作されるようになります。先にご紹介した有坂與太郎氏は、郷土玩具の生産者たちが生活を維持してい



写真4 「郷土玩具展覧会 中巻」

月号の特集では、編集部が調べた各地の郷土玩具一覧や、郷土玩具の紙上展覧会などが掲載されています。

一方で郷土玩具関連の書籍では、玩具を収集する際の目安となるような、各地の郷土玩具番付が付録とされたり（写真3）、鉄道の旅を意識したテーマで郷土玩具を紹介するものが多く見られるようになります。たとえば、当時のブームを牽引した一人である有坂與太郎氏^{※2}によって昭和十五（一九四〇）～四一（一九四六）年にかけて著された『郷土玩具展覧会』上・中巻（下巻は未発行）では、鉄道沿線上で手に入る玩具が駅ごとに紹介されています（写真4）。上巻では東海道本線、山陽本線、関西本線が、中巻では、東北本線、奥羽本線、常磐線、総武本線が取り上げられ、どこの駅で降りれば購入できるのか、駅によってどこ行きバスに乗ればよいかまで詳細に記されています。

大正末から昭和初期にかけての郷土玩具ブーム

むへびのように見えます。緑や黄色で彩色され、かつては尾の部分に笛付きのものもあったようです。昭和五十二（一九七七）年の年賀切手の図案に採用されました。

明治二十四（一八九二）年から大正十三（一九二四）年にかけて、全十編にわたり郷土玩具収集趣味を紹介した『うなるの友』^{※1}という画集があります。

この画集は、各地に郷土玩具収集を趣味とする人々を生み出す契機となり、その後、郷土玩具収集家たちのバイブルとして現在に至るまで親しまれています。この画集には、作者である清水晴風氏が自ら各地で手に入れたものや、旅をした知人からの郷土玩具が九〇〇種近く取り上げられており、へびの郷土玩具は江戸時代から、刊行当時のものまで六種類

けるような、独創的で郷土色豊かな新作の玩具「創生玩具」の製作を推進する運動を興します。齊藤良輔氏によるとこの運動の結果、各地で新たな玩具が誕生し、戦時中に一部途絶えたものがあるものの、戦後各地の観光地で土産物として目にする郷土玩具は、この当時に誕生したものの系譜に位置づけられるとされています。竹尾コレクションに収められたへびの郷土玩具の多くも、このブームを経て製作されることになったものと考えられます。

今回の展示でご紹介する日本各地のへびの郷土玩具と、明治時代から連続と受け継がれてきた郷土玩具を愛する人々の情熱とが、新春の明治村にお越しくださった皆様の心を少しでも暖かく、華やかにするものとなれば幸いです。

※1 『うなるの友』は、運送業を営み、後に「玩具博士」とも呼ばれた清水晴風氏（一八五一—一九二二）によって編まれた画集です。大正二（一九一三）年に第六編が刊行された後、清水晴風氏の死に伴い、玩具収集家の西沢仙湖氏の娘婿となった日本画家の西沢笛歌氏によって引継がれ、全十編が発行されました。木版彩色摺の美しく愛らしい各地の郷土玩具が描かれており、郷土玩具研究の貴重な資料であると同時に、彩色不版画の画集としても多くの人々を魅了してきました。

※2 有坂與太郎氏（一八九六—一九五五）は、大正から昭和初期にかけての郷土玩具の収集・研究ブームを牽引した一人です。特に郷土玩具収集家たちの組織化に積極的に関わり、機関紙の発行や玩具の紹介書の執筆など精力的な活動を続けました。

●参考文献

- 有坂與太郎 『郷土玩具種々相』一九三二年 嵩山房
- 有坂與太郎 『郷土玩具展覧会 中巻』一九四一年 山雅房
- 川越仁恵 『郷土玩具の誕生—伏見人形の民俗誌的考察を通して—』『列島の文化史』第11号 一九九八年 日本エディタースクール出版部
- 鈴木愛三 『日本俗信辞典・植物編』一九八二年 角川書店
- 齊藤良輔編 『郷土玩具辞典』一九七一年 東京堂出版
- 『旅と傳説』編輯部編 『郷土玩具大全』一九三四年 一誠社

冬の明治村

2012年12月15日(土)～
2013年2月17日(日)

※休村日は裏表紙の休村日カレンダーをご覧ください。

1月1日(祝)～6日(日)は和服でご来村の方は入村料金が半額になります。

★クリスマスイベント

★クリスマスデコレーション

〈聖ザビエル天主堂、聖ヨハネ教会堂、帝国ホテル中央玄関ほか〉

12月25日(火)まで
明治村の洋館や教会堂がクリスマスの装いに。豪華なリースやガーランドのほか、帝国ホテル中央玄関には参加型デコレーション「メッセージ・ツリー」が登場します。

★クリスマスミサ 〈聖ザビエル天主堂〉

12月22日(土) 11:00～
神父さまのお話やキャンドルサービスなど、どなたでもお気軽にご参加いただけます。

★教会クリスマスコンサート 〈聖ザビエル天主堂〉

12月15日(土)、23日(祝) 13:00～/14:30～
■出演: 鎌田貴乃(ピアノ) 他
12月22日(土) 13:30～/14:30～
■出演: コンプリオ

★ウクレレコンサート 〈聖ザビエル天主堂〉

12月24日(休) 13:00～/14:30～
■出演: IWAO(ウクレレ)

★クリスマス演奏会 〈聖ザビエル天主堂〉

12月21日(金) 14:30～(約30分)
■出演: 師勝はなの樹幼稚園

★キャンドルサービス 〈聖ザビエル天主堂〉

12月23日(祝)、24日(休) 各日10:00～12:00

★クリスマスメニュー

12月15日(土)～25日(火)
鶏もも肉のワイン煮
(オムライス&グリル浪漫亭) ほか



◆新春イベント

日本各地の門松・しめ縄めぐり

〈正門・東松家住宅・京都市中井酒造・宇治山田郵便局舎ほか〉
1月1日(祝)～27日(日)
※門松は1月14日(祝)まで
村内各所の歴史的建造物に、郷土色豊かなお正月飾りをいたします。

甘酒振る舞い 〈食道楽のカフェ横芝生広場〉

1月1日(祝) (協力: 小弓鶴酒造)

宿題しましょ 書初め道場 〈安田銀行会津支店〉

1月2日(水)、3日(木) 13:00～15:30
先生が丁寧に書の手ほどきをします。

祝餅つき 〈呉服座前〉

1月2日(水) ①12:00～ ②14:00～
■出演: めでたや
ダイナミックな餅つきのパフォーマンスで新年をお祝いします。

新春祝い「大道芸」 〈呉服座前〉

1月3日(木) ①13:00～ ②14:30～
■出演: 柳家三亀司 ほか

日本のあそび体験

〈食道楽のカフェ横芝生広場 荒天時・無声堂〉
1月1日(祝)～6日(日)

み年郷土玩具展 〈三重県庁舎〉

●期間中

お正月グルメ

12月29日(土)～1月14日(祝)
なごや雑煮(なごや庵)

しめ縄作り体験

〈安田銀行会津支店〉
12月16日(日) 13:00～
電話でお申し込み下さい。
定員/先着20名(材料費:400円)
※しめ縄はお一人様ひとつずつ作っていただきます。

事前
予約制

明治村
子規はやく ～冬～
四季HIKE
協力: 松山市 ●期間中開催

特別展 開催中!

新美南吉生誕100年記念 「南吉童話と明治の灯り」

～平成25年2月17日(日)～
■会場: 宇治山田郵便局舎内展示スペース
平成25年に生誕100年を迎える半田市出身の童話作家・新美南吉を紹介しています。
会場では「灯り」をテーマにしたメッセージの募集を行なっています。(詳しくはHPをご覧ください)

坂の上の雲ミュージアム5周年記念 「明治村のなかの松山」

～平成25年1月27日(日)～
■会場: 北里研究所本館・医学館
■協力: 松山市

♥バレンタインイベント♥

◆バレンタイン・コンサート

〈聖ザビエル天主堂〉
2月9日(土)・10日(日)・11日(祝)
バレンタインデーにぴったりのしっとりした大人のコンサートです。

◆バレンタインメニュー

1月19日(土)
～2月17日(日)
ホットチョコレート
(デンキブラン汐留バー) ほか



◆冬限定グルメ◆

期間中、温かい料理をお出ししています。

- なごや庵: 味噌しめん
- なかい茶寮: もち入りぜんざい
- 食道楽のカフェ: クラムチャウダー
- 浪漫亭: ピーフシチュー など

ガイドツアー 「帝国ホテル中央玄関を巡る」

事前
予約制

- ①12月23日(祝)
- ②1月14日(祝)
- ③2月10日(日) 時間はいずれも13:00～

普段は非公開の3階部分を特別公開し、ご案内します。

■参加費500円(要予約) ※各回定員15名

■ご予約は電話でお申し込み下さい。

- ①12月8日～ ②12月29日～ ③1月26日～

明治探険隊 ウィンタートレーニング

2月2日(土)～24日(日)
明治村春のビッグイベント「明治探険隊」を知っている人も知らない人も、冬の間にみっちり鍛えよう!
■参加費/100円

明治探険隊検定

2月16日(土)、17日(日)
■主催/ RUSH JAPAN株式会社 ■協力/博物館明治村
■有料
■詳細・申し込みはタカラッシュHPをご確認下さい。
http://www.takarush.jp/

※各イベントは荒天時、中止となることがあります。悪しからずご了承ください。

※催事内容は予告無く変更・中止する場合がございます。詳しくはお電話でお問合せいただくか明治村公式HPをご覧ください。

お問い合わせ先

http://www.mejimura.com または 0568-67-0314

A La Meiji-mura

明治のタイムカプセル

●聖ヨハネ教会堂(1丁目6番地)



聖ヨハネ教会堂入口脇の石に「1906」(写真1)と数字が刻まれているのに気付かれた方も少なくないと思います。この石は「定礎石」と呼ばれるもので、現在でもビルの玄関脇に「定礎」など刻まれた文字をよくみかけます。

もともと定礎石は西欧での建築工事の安泰を祈る行事・定礎式で据える石のことでした。石には年月を刻み、鉛製の礎石箱(写真2)の中に、貨幣や記念となる新聞などを収めました。この聖ヨハネ教会堂の定礎石の中には、

- (一) 記録
- (二) 設計図(青焼き) 四枚(図1)
- (三) 照引新約全書
- (四) 日本聖公会祈祷書
- (五) 耶蘇降生千九百六十年明治三十九年聖公会略歴
- (六) 明治三十八年五月



写真1 定礎石

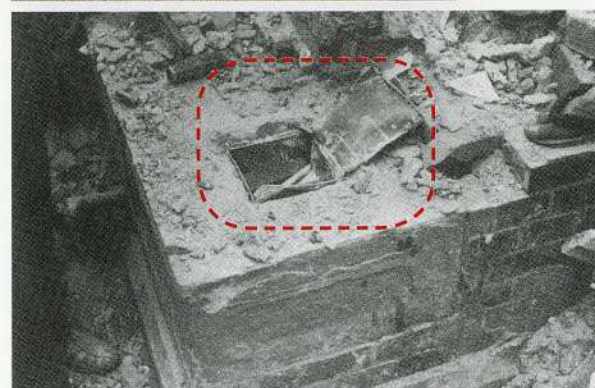


写真2 鉛の礎石箱

改正教主降世千九百五十五年日本聖公会憲法規程
(七) Nippon Sei Kokwai Hoken Hoki
(八) 日本聖公会京都地方会規定
(九) The Book of Common Prayer
(十) The Spirit of Missions
(十一) 古銭七枚
聖ヨハネ教会堂は、明治三十九年(一九〇六)年四月二十四日に定礎式(写真3)が執り行われました。この日は定礎石の中に収められた上記(一)の記録に「耶蘇降生千九百六十年 明治三十九年 四月式拾四日 京都聖約翰教會定礎式執行」と記載があることがわかります。そしてこの教会堂は翌年の明治四十(一九〇七)年五月十六日に聖別式を行い、以後信徒のみならず市民にまで広く親しまれてきました。しかし、昭和九(一九三四)年の

室戸台風、昭和三十六(一九六一)年の第二室戸台風などで大きな被害を受け、昭和三十七(一九六二)年教会堂の維持管理は困難と判断し、取り壊しが決まりました。昭和三十八(一九六三)年八月十九日に解体が始まり、同二十日に定礎石納入品の確認が行われました。その際に発見されたものが、上に記載したものです。
欧米の教会堂では移築・建替などが多くあることではないので、創建から百年を経たずして解体・移築されるとは設計者のガーディナー(J.McD. Gardner)も想像していなかったことでしょう。そしてこれら定礎石に納められていたものが移築に際して、大きな役割を果たしたことは言うまでもなく、後世への贈り物であるかのようです。

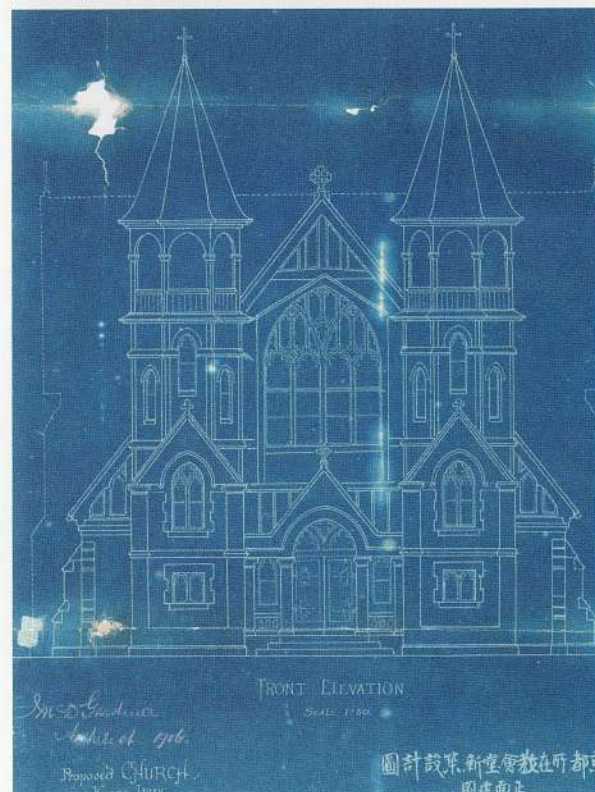


図1 京都所在教會堂新築設計図正面建図(重要文化財附指定)

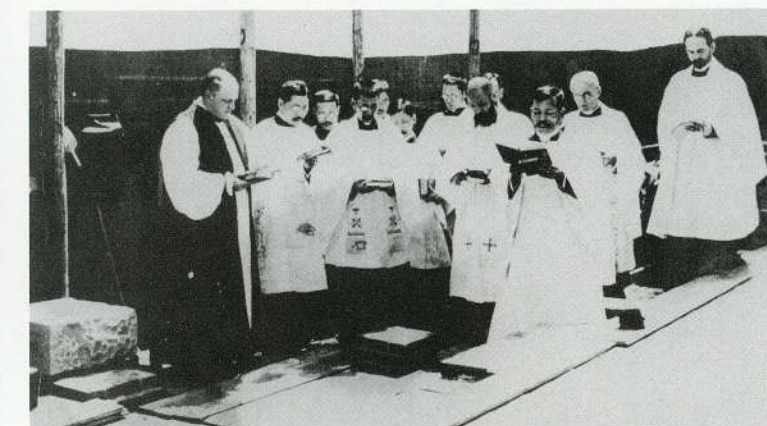


写真3 定礎式

※写真2・3は明治村建造物移築工事報告書第五集聖ヨハネ教会堂より転載

特選



「秋雲沸く」 鎌田 弥生



「夏夜の色彩」 河村 和雄



「残り柿」 水野 鐘二



「月見」
高木 博規

明治村写真コンテスト「明治村百景」募集要項

- テーマ：明治村を表す作品
明治村の四季折々の美しさや賑わい、
明治村を楽しむ人々の心温まる風景やイベントの様子
- 応募期間：平成24年7月1日(日)～平成25年6月30日(日)
- 規定：所定の事項を記載した応募票を添付。
一人何点でも応募可(原則、入賞は一人につき一点)。
カラープリント 四ツ切・ワイド四ツ切(デジタルの場合は
A4サイズも可)。単写真のみ。応募作品の返却不可。
デジタルの場合は色彩や明度の調整程度の処理は可。
- 締め切り：平成25年6月30日(日)(当日消印有効)
- 表彰式/写真展：平成25年秋を予定
- 賞：明治村大賞…1点(賞金10万円)
推薦…3点(賞金3万円)
特選…4点(賞金2万円)
協賛会社賞…9点(富士フィルム株式会社、
ハクバ写真産業株式会社
株式会社学研パブリッシングを予定)
- 入選…13点
- 主催：博物館 明治村
- 応募先：〒484-0000 愛知県犬山市内山一番地
博物館明治村写真コンテスト係

大賞

明治村写真コンテスト 紙上展覧会



「明治村に雪が降る」
鶴岡 明

推薦



「祝福」 村上 光彦



「渡り廊下の眺望」 杉山 桂



「よろこぶ雲たち」
川合 俊雄